

岐阜大教育学部障害児教育講座



廣惠助教 恕授

現在の会員は言葉の教室や学校の先生のほか、吃音を持つ子どもや大人を含めて約五十人。研究

大人の約百人に一人が吃音に悩んでいる。

たいと、二年前、障害を持つ子ともを指導する先生や吃音経験者を集めて「岐阜吃音臨床研究会」を組織した。

大学はいま

研究室から

初めの音や単語を繰り返したり、言葉が詰まつて出でなくなったりして滑らかに話せない」とを吃音(きつねん)と呼ぶ。や、指導法がわからず、頭を抱える指導者が多いため、小学校就学までに約半数が治療する。しかし、治療法について不明な点が多い。幼児期の吃音がそのまま音がそのまま治るだけではなく放置されがちなので、吃音の中でも、吃音を正しく理解してもらいたい。

吃音とうまくつきあう

会では吃音経験者の体験や指導事例を通して、吃音児の生きやすさについてながる対処方法について検討している。治すことばかりにとらわれていると吃音は大きな心の問題へと進展しかねない。研究会の主催する学習会、事例、吃音相談などの活動から、吃音とうまくつきあって生きる、あるいはそれを支援するためのヒントを得てもういたい。

研究会の問い合わせは

研究会の問い合わせは
廣島研究室、電話058
(2003) 2000000まで。

教育講座助教授 廣惠

忍